

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表(理学療法学科 I)
2023.4.1現在

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
人間発達学	平間 亮	30	必修	講義	3	幼児期の骨折、白血病などの難病を病院や訪問リハビリで経験しました。成長過程にある骨の特徴や正常な発達過程の知識が重要です。またリハビリの対象者が幼い場合は保護者への説明や同意が必須となります。ご家族の育児状況や生活への影響の理解も信頼関係を深める上では非常に重要となります。覚える量も膨大なため、記憶に定着しやすい覚え方のポイント、語呂合わせなども行ってまいります。
理学療法概論(研究法) I	村田薫克 水野靖廣 後藤洋平 笠原靖子 平間 亮	30	必修	演習	3	村田：理学療法分野でも自分が研究したことを世の中に出していくことは非常に大切な経験と財産になります。簡略化されている部分もありますが、伝える方法を少しでも学べるようにしていきますので頑張って授業を進めていきましょう。 水野：研究をすることによって理学療法の難しさ、奥深さ、何より面白さを体験することが出来ます。基本的にはグループで協力し合い実施していきますので、身勝手な行動は控え全員で助け合って一つの成果物を仕上げましょう。 後藤：臨床にでると、疑問も多く、文献を散見する機会は多くあります。自分自身で疑問に対し知識を深めていくことは理学療法士として必要な能力であり、論理だてて学会発表や文献に起こすことで後世に残るものとなります。一緒にしっかり学びましょう。 笠原：研究は、身近ななぜ? どうして? となるのか? など興味や疑問に思った事をグループで考えます。結果のみでなく、1つの事を成し得る達成感・充実感の大切さを学ぶように授業を行います。 平間：2年時に上級生の研究を見学しておりますのでイメージがしやすいと思います。当時に上級生も幾多の困難を乗り越えていました。担当になる教員と相談し、グループ間でも協力して経験を積み重ねていきましょう。
動作分析学 II	平間 亮	30	必修	演習	3	理学療法士は動作分析のスペシャリストです。理解すれば実習中の先生方が同じように患者さんを観察していても、そこから得られる情報に差がある理由がわかります。その思考は様々な疾患だけでなく、小児疾患やアスリートリハビリでも応用できます。また臨床に出ても必要な評価項目を厳選でき、患者さんの負担は軽減し、治療時間を確保できます。さらには治療効果の判定にも有効活用できます。動作分析する思考を身につけましょう。
検査・測定法 V	村田薫克	30	必修	演習	3	私は急性期病院で10年間働き、その後も整形外科クリニックで臨床を10年以上経験しています。しかし、いまだに何が治療として正解なのかは難しく、多くの答えがあるのも理学療法だと思っています。悩むにも知識がないと十分考えることはできず、いまだに日々勉強だと思っています。将来自分の治療に自信が持てる理学療法士になれるよう、今から臨床推論の思考過程を鍛えていきましょう。
疾患別運動療法演習 中枢 I	片寄純一	30	必修	演習	3	主に回復期リハビリテーション病棟で脳卒中患者の理学療法を実施してきました。その他、外来リハビリ、急性期リハビリ(ICU含む)、通所リハビリ、訪問リハビリ、老健、教員などの経験があります。現在は上記回復期での勤務のため、基礎的理論の復習を行いながら、実際の理学療法の知見を交え授業を行っていきます。
疾患別運動療法演習 中枢 II	平間 亮	30	必修	演習	3	病院を退院しても病気が治るわけではありません。私自身病院の勤務を経てデイサービスや訪問リハビリテーションで働いた経験を活かして、どのように理学療法を進めてきたのかをお伝えします。また、病氣と向き合う本人と家族、サポートする医療や介護体制についての現状についてもお伝えします。
疾患別運動療法演習 中枢 III	後藤洋平 平間 亮	30	必修	演習	3	平間：病院、クリニック、デイサービス、訪問リハビリテーション等で働いた経験から得た知識を活かし、教科書の知識だけでなく、実際の臨床ではどのような症状がみられるか、またどのような理学療法を行うのかを伝えていきます。 後藤：高次脳機能障害は学生が実習で多く悩む分野だと思います。実際に臨床に出ていても、高次脳機能障害を理解して実施するリハビリとそうでないリハビリは明確な差がでるように感じています。楽しくしっかり学習して、実習や臨床で対応できる知識・技術を身につけましょう。
疾患別運動療法演習 整形 II	笠原靖子	30	必修	演習	3	中学から大学までソフトテニス部に所属してきました。大学では授業で専門外のスポーツを色々経験しました。経験談を踏まえて授業を進め、様々なスポーツに興味を持っていただけたらと思います。様々なスポーツの特性を知る良い機会になると思います。わからない事を調べながら知識を増やしていきましょう。
疾患別運動療法演習 整形 III	水野靖廣	30	必修	演習	3	理学療法士として整形外科で実務経験がある教員が、脊髄損傷、切断ともに基礎科目である解剖学、生理学から講義します。基礎を理解してから自律神経過反射や異所性骨化、脊髄ショック、拘縮などの合併症、ブラウンセカール症候群や脊髄空洞症などの詳細、病態を解説していきます。また、講義内にて確認テストを実施します。この確認テストは成績評価の一部となりますので普段からの授業を大切にしてください。
疾患別運動療法演習 内部 I	平間 亮	30	必修	演習	3	理学療法士として呼吸関連は疾患としてだけでなく、人工呼吸器などの離脱でも理学療法士が関与することが多くなってきています。近年では病院でも理学療法士が気道内分泌物を吸引することが増えてきています。もちろん吸引ができないと症例は窒息で生命維持が困難になります。生命に関わる知識ですのでしっかり勉強しましょう。
疾患別運動療法演習 小児	原田隆之	30	必修	演習	3	一般社団法人Re Smileでは、2012年に制度化された放課後等デイサービス(障がい児が学校後や休日に通う施設)において、全国でも珍しいリハビリに特化した運営を行っています。講義の中では、利用児・ご家族の協力を得て、写真・動画を駆使しながら、実際のリハビリ現場をイメージしやすいように行なっていきます。
合計		330		時間		

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表(作業療法学科)
2023.4.1現在

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅰ)	日比和宏 伊藤大貴	30	必修	講義		整形外科疾患から中枢疾患と様々な疾患の作業療法を急性期から維持期まで病院、施設、クリニック、訪問と多岐にわたる臨床現場で経験してきた。(日比) 急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。(伊藤) 経験談も交えつつ、基礎的な治療の必要性や対象者にあわせた応用的な治療の考え方、技術などを伝えていく。
作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅱ)	日比和宏 伊藤大貴	60	必修	演習		整形外科中心の病院で急性期から維持期まであらゆる疾患、特に上肢の整形疾患、脳血管疾患を治療してきた。(日比) 急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。(伊藤) 対象者・家族のリアルなニーズとデマンドに対して、どのような治療を行ってきたのかエピソードトークも交えてお伝えします。
作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅲ)	石田敦子 伊藤大貴	60	必修	演習		総合病院で急性期病棟、回復期病棟、療養病棟、外来と病期を継続的に追って治療した。訪問看護ステーションでは施設、在宅の地域の対象者や家族が笑顔になれる生活を考え、作業療法を実施してきた。(石田) 約8年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入し、学会発表も多数実施している。(伊藤) 対象者・家族のリアルなニーズとデマンドに対して、どのような治療を行ってきたのかエピソードトークも交えてお伝えします。
作業治療学Ⅱ(精神障害Ⅰ)	中村千紘	60	必修	講義		精神科病院において、病棟作業療法、訪問看護、デイナイトケアを担当する。その後、メンタルクリニックにてリワーク・デイケアの立ち上げを精神科作業療法士として実施した。その経験をいかし、精神科の基礎知識についての講義授業を担当する。
作業治療学Ⅲ(発達障害Ⅰ)	杉野潤也 伊藤大貴	30	必修	講義		一般病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーションでの約11年間の臨床経験をともに発達障害領域の作業療法について講義を行う。(杉野) 約8年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として関わってきた。小児から高齢者まで幅広い対象者に対し治療を行ってきた。(伊藤)
作業治療学Ⅳ(老年期障害Ⅰ)	藤野頼貴	30	必修	講義		認知症治療病棟・重度認知症デイケア・訪問看護からのリハビリテーション・デイサービスにて勤務し、認知症をはじめとする高齢者へのリハビリテーションに従事してきました。また地域などでも認知症カフェ等での講師を行ってきたため、医学的リハビリテーションのみならず、予防領域においても地域包括ケアシステムの一役を担えるように授業を展開します。
義肢装具学Ⅰ	廣島 淳	30	必修	講義		医療機関等で義肢装具士として、現在も活躍中である非常勤講師が、体験談などを交え、義肢装具の概要を講義し、国家試験に必要な知識を学ぶ科目である。
生活環境論	藤野頼貴 石田敦子	30	必修	講義		訪問看護ステーションからの作業療法業務に従事し、福祉用具業者と連携し難病や中枢神経疾患患者の福祉用具の選定や、骨折術後患者退院前訪問などによって住宅調整を行ってきました。ソーシャルキャピタルへの取り組みとしても、認知症サポーターの育成や認知症カフェの運営などを行ってきました。実際の福祉用具の活用方法など実技を交えながら授業を実施します。(藤野) 訪問看護ステーションに従事し、本人・家族の住みやすい環境を考案してきました。ケアマネジャーや医療職、介護職などによる専門職チームのなかで障害と生活の知識を組み合わせた作業療法士ならではの視点で助言や意見を行った症例なども出しながら授業を進めていきます。(石田)
合計			330		時間	